

椎の実子供の家
令和7年度 事業報告

本年度より幼児クラス2クラスを3クラス編成に変更してのスタートであった。一クラス縦割り20名という児童数が部屋の広さに適切であったようで、落ち着いた雰囲気の中でモンテッソーリ活動を活発に行う姿へと変化していった。また担任を2名配置することで大人の見守りが多い中での環境となり、子ども達の生活にメリハリが付き保育の内容もバランスの取れた展開がみられた一年であった。

園児数は新年度スタート5歳児1名の欠員に加え、年度途中お引越しのため5歳児1名の退園が発生した。その後園児数が埋まることはなかった。

三鷹市の保育園空情報をみても各園、幼児クラスの募集人数に変更がないところから、今後も途中退園があった場合、その後入園希望者があるとは考えにくい。
さらに広報活動に力を注いでいく必要がある。

職員に関して、第二椎の実子供の家との合同研修で茂木厚子先生から「子どもの発達」について前期、後期と連続の研修ができたことは、各自の振り返りを含めながら講義を受ける、保育に活かすという良いサイクルで、子どもの援助に向かうことができた。

重点目標

- I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて健康な心と体を育てる
- II 保護者との共育を意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す
- III 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る
- IV 感染症対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底
- V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

I 子ども主体の活動、遊び、運動を通じて、健康な心と体を育てる

乳幼児の発達を踏まえ、個々の子どもの興味や欲求に応じた遊びを確保し、子どもが主体的に取り組める魅力ある教育・活動の工夫や、モンテッソーリ教育の精神を主体とした自立への支援を行った。

基本的生活習慣の確立、遊具や道具を使った運動遊び、年齢や発達に応じたルールのある集団遊びを経験させ、楽しみながら体づくりを行い、人と関わる力を身につけられるよう努めた。

さらに異年齢の縦割り保育の中では、助け合いながら集団生活を過ごし、他者と共存して生きるための力である協調性や社会性を育んだ。

就学教育前の実践として、9月から5歳児だけで活動する時間を増やし、1月からは保育室を分け遊びや学びを共にすることで、縦割り混合クラスで過ごすのとは違った連帯感や仲間意識が芽生えた。

散歩では野川沿い、武蔵野の森公園、調布自由の広場の芝山で遊ぶなど、自然の変化を感じながら、体を使った遊びを十分に楽しみ、大沢地区の自然を十分に活用することができた。

また音楽や絵画などの表現活動も大切にした。例年実施しているクリスマス発表会では、5歳児が手話や英語での歌唱など新しいことにもチャレンジをした。

Ⅱ 保護者との共育を意識し、一人ひとりの成長段階を共有しながら生活習慣の確立を目指す

発達段階には個人差があるため、個別対応が必要な場合はクラス内で共有するとともに、家庭との連携に努めた。家庭での子どもの姿と園での姿に相違がみられることもあるため、保育参観や面談で、園での過ごし方や関わり方について、それぞれの家庭の子育て感を聞き取りながら、子どもの育ちや援助について考え方の統一を図った。

参観後の保護者からは、家庭では見られない子どもの姿に新たな発見があったという声が多く聞かれ、安心感につながった様子がうかがわれた。

特に乳児の面談では、トイレトレーニングや食事についての不安が多くあり、園での声掛けを紹介し、保護者と園とが同じ歩幅で進めていけるよう関係性をつくっていった。

食事の場面では、子ども達の表情も見ていただけるようコドモンでの動画配信を活用し、食の大切さも伝えていった。

保護者連携については、行事での保護者ボランティア活動を「保護者サポーター」と位置づけ、各行事の準備等に参加を募ったところ、たくさんの方にご協力いただき、準備、片付けと滞りなく行事を進めることができた。

Ⅲ 幼児教育機関として、モンテッソーリ教育を主体とした保育の充実及びより専門性の高い人材育成と職員の定着化を図る

モンテッソーリ教育の精神を主体とし、子どもの「ひとりでできるようになってください」との思いを逃さないよう観察をし、必要な援助を行うことで子どもの育ちに寄り添った保育を行っていた。

職員教育については、東京都が実施する保育士等キャリアアップ研修を中心に受講を進め、保育園に携わる者としての知識のレベルアップを目指した。

また、三鷹市巡回発達相談を年4回受け、助言を受けたことを日々の保育にも実践することで、職員のスキルアップへとつながった。

日々の保育の振り返りとして、全国保育士協会から出ている「人権擁護のセルフチェックリスト」を全職員対象に、12月に行い、子どもの人権について個々で振り返る機会とした。その後職員会議で議題に挙げお互いの保育について、意見交換をして意識の持続を目指すことができた。

モンテッソーリ教育園内研修の充実のため、年間計画を作成し有資格者が中心となって講師を務めた。

Ⅳ 感染対策、衛生管理、安全管理の周知及び徹底

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努めた。あわせて、職員の健康管理に気を配っていった。

安全管理については、6月早朝、ホワイエにて不審者と思われる男性が確認したので、三鷹警察署生活安全課、天文台下駐在所へ相談の連絡を行った。また、それと同時にパトロールを強化してもらった。特に問題はなく過ごすことができた。

保護者にも以上の内容について連絡をし、園児の送迎者の確認及び外部の方の来園の確認をこれまで以上に徹底して行った。

また、策定が義務化された安全計画の見直しを行い、子どもの安全、及びBCPの確認を職員間で行った。

地域交流スペースについては、別のセキュリティエリアを設定しており、防犯カメラを使用して人の出入りの確認に努めた。

感染症については、インフルエンザの感染者が多数出たことにより一層感染予防を強化

し、終息に向け全力を注いだ。

給食提供では、誤食ゼロを目指し、検食簿を活用して複数人でチェックすることで目標を達成することができた。

V 地域子育て支援の継続と、地域・保護者との連携により共育活動を推進する

保護者・地域と協力して、園児及び地域の子育て家庭の子どもたちの心を育み、共に成長を見守った。

未就園児のいる家庭に向けては、保育園の環境を十分に活用してもらうべく、地域活動のお知らせである「しいのみクラブニュース」の発行を継続して実施。親子リトミックなどのイベント開催時は利用者の関心も高かった。

それらに加え今年度も夏祭り、移動水族館、お店屋さんごっこと様々な行事に地域子育て家庭に参加を募った。

宣伝効果もあったようで、しいのみクラブに遊びに来ていた方の入園希望者が増加していた。

一時預かり事業については、後半に利用者が増え特に特にリピーターの利用が多くあり、安心して預けられるとの声をいただいた。

また、保護者が子育てを負担に感じているように見受けられる場合には、一時預かり・地域事業担当者や他職員が積極的に声をかけるなどし、相談先としての安心感を持てるよう働きかけた。

高齢者との交流では、近隣の高齢者施設を訪問して、ゲームをしたり、歌を聴いてもらうなど、楽しい時間を共有することができた。

小学生対象の同窓会では、参加者が多いため、今年度は1年生、6年生を対象として開催。小学生と交流する機会を持ったり、学校探検などで小学生にお世話をしてもらうことで、小学校への期待感が高まったようだった。

7月に開催した夏祭りは、椎の実子供の家、しいのみクラブ、地域交流スペース合同開催として、多くの地域の方にも参加していただけた。

昨年新しい試みとして開催した移動水族館を今年度も開催した。平日開催にも関わらず親子参加が多く、特にタッチプールで自由に生き物に触れると好評であった。

1 園児について

園児とクラス編成

(1) 定員 107 名

(2) 年齢別

① 0歳児 9名 ② 1歳児18名 ③ 2歳児 20名

④ 3歳児 20名 ⑤ 4歳児20名 ⑥ 5歳児 20名

(3) クラス編成と職員構成

クラス名	対象年齢	定 員	在籍数※	保育士	職 員 数
たんぽぽ	0歳児	9名	9名	3名	園 長 1名 副園長 1名 主任保育士 1名 保育士 20名 看護師 1名 栄養士 1名 調理師 2名 事務員 2名 非常勤職員 16名 嘱託医 1名
すみれ	1歳児	18名	18名	4名	
つくし	2歳児	20名	20名	4名	
あんず	3歳児 4歳児 5歳児	7名 7名 6名	7名 7名 5名	3名	
も も	3歳児 4歳児 5歳児	7名 6名 7名	7名 6名 7名	3名	
さくら	3歳児 4歳児 5歳児	6名 7名 6名	6名 7名 6名	2名	
合 計		107名	105名	19名	
一時預かり	満1歳～5歳	6名		2名	46名

※ 令和8年3月31日現在